

令和2年1月月例記者会見

【説明】

〔7つの分野の「官民プロ人材」の職員採用試験〕

市長 全国で初めての取り組みとして、昨年から進めておりました官民プロ人材の採用ですが、選考プロセスが終わりまして、1,025人の応募があり、その中から12名を採用することになりましたので報告させていただきます。12名の内訳は、常勤職員として4名、非常勤職員として8名となります。非常勤職員は、全員が兼業や副業で勤務して頂き、生駒市を本業として頂くのが1人、副業というのが7名となります。この8名の内6名がテレワークでの勤務を希望しています。今回全国的にも今までに例のない先駆的な採用が出来たのではないかと考えております。今後は、今まで従事している職員と良い形で力を合わせてより良いまちづくりを行っていきたくて考えております。採用の詳細ですが、7つの分野で、それぞれ40倍以上の倍率で、観光企画や地域活力創生の分野では200倍を超えています。採用予定者の経歴ですが、自治体職員、人事のコンサルタント、自ら起業している人、IT企業などの民間企業で活躍している方などを採用します。詳細は採用が決定する時期にまた報告いたします。

〔西日本初！介護や医療の魅力を体感できるイベント「ケアリンピック生駒」を開催します〕

市長 ケアリンピックですが、介護や医療の魅力を体感し、福祉介護関係の専門職の人材確保に取り組むためのイベントです。関東方面では、東京都武蔵野市で行われていますが、西日本では初めてで、2月16日に開催します。具体的な内容は、地域包括ケアシステムに関する講演・パネルディスカッション、介護ロボット等展示、VR認知症体験など最先端技術を取り入れたもの他に、中学生、高校生の職場体験発表などもあり、盛りだくさんな内容となっております。私も参加をさせていただきます。厚生労働省も生駒市の取り組みに注目して頂いておりまして、パネルディスカッションでは同省老健局長の大島一博さんにも来て頂きます。

〔職員業績表彰に市民からの投票による職員への表彰枠を新設〕

市長 職員の業績表彰について、新たに市民からの投票により決定する枠を設けました。今までの職員の業績表彰では、永年勤続表彰や職員提案表彰などが多く、それ以外に業績表彰として、発信・表彰、市民協創、チャレンジ、災害支援・善行、地域貢献の5つの部門があり、市役所の中で選考して決定しておりました。我々は基礎自治体の職員ですので、市民に直接投票頂いて職員を表彰するという部門を新たに設けたということです。他の自治体での表彰内容を調べ切れておりませんが、全国的にも珍しい取り組みであると考えています。投票は本日から2月3日まで行っておりまして、インターネットの投票の他に、市役所のロビーにも投票所を設けております。表彰式は、市民からの投票以外の表彰も含めまして2月21日に市役所で行います。

〔地球環境セミナーin生駒「気候変動と脱炭素社会」を開催〕

市長 「地球環境セミナーin生駒」ですが、つくば市にある、気候変動やエネルギー問題など環境全

般の研究をしている国立環境研究所から講師を招き、2月15日の土曜日の午後に南コミュニティセンターせせらぎでセミナーを行います。講師の江守氏、塩竈氏、藤田氏は、三人とも日本を代表する環境、エネルギーを切り口としたまちづくりの専門家で、特に江守さんは有名でメディアにも出ておられます。その他、生駒市から市民エネルギー生駒の楠さんと私も含めてパネルディスカッションも行います。生駒市はSDGs未来都市にも選ばれておりますので、会場でSDGs未来都市や気候変動などの説明も行いたいと思っております。国立環境研究所のご厚意で日本を代表する第一人者の研究者の研究成果の発表とこれらの問題を考えることが生駒市のまちづくりにどう繋がっていくのかとかというディスカッションをしたいと思っております。

【土日開催！オトコノ定年前セミナー】

市長 「オトコノ定年前セミナー」ですが、ららポートで定年後の男性の地域参加ということを中心とした取り組みです。団塊の世代が退職され地元に戻ってきておられますが、そういう方々に地域活動に入ってきて頂きたいということで、今までも生駒市では地域デビューガイダンスや高齢者のサロンなど高齢者集まる場所でのボランティア活動などへ繋ぐなど、いろんな取り組みをしております。今回定年後ではなく、定年前から定年した後のことをしっかり考えてもらおうと、定年が近い方々を対象に、特に男性の社会参加が一つの課題になっておりますので、きっかけ作りとしてセミナーを行います。今までもボランティア活動をしている方は多いですが、これからはビジネス経験のある方が地域に戻ってきて、地域の課題をビジネス的手法で解決して頂くということも含めまして、そのきっかけ作りとしてセミナーを行います。具体的には2つの部分から構成されており、一つは、2月2日の午後に楠木新さんを迎えての講演、もう一つは、2月15日から5回の連続講座を行います。講演を聞いて終わりだけではなくて、まちづくりの先輩の話を聞いたり、現場へ見に行ったりなどし、最後の3月14日には受講者にこう言ったまちづくりをしたいということを宣言して頂きたいと思っております。最終日には私も参加し、宣言を聞いたり、応援できることをお話したいと思っております。

【図書館ホームページをリニューアルします】

市長 図書館のホームページをリニューアルし、1月28日から公開します。リニューアルのポイントは、自分の読書履歴が分かったり、新着本の情報がメールマガジンで来たり、本の返却日をメールで知らせる機能などがあります。その他に子ども用のページがあり、子どもたちの読書の促進として、本をたくさん読めばメダルが貰えるという工夫であったり、見守り安全確保ということで、図書館への入館、退館時に親御さんにメールで通知する機能もあります。

【「本棚のWA」第9話は、『こんな編針で編んでみたい』】

市長 本棚のWA第9話ということで、図書館ワークショップから始まった、市民と図書館司書が協働で行っていますが、毎回たくさんの方に参加して頂いております。普段はあまり図書館へ行かない人に図書館のいい所を感じて頂くきっかけにもなります。今回は、高山町の近畿編針から尾山敬さんに来て頂き、編針のお話をして頂きます。近畿編針は竹の編針で世界的にも有名で、編み物をしておられる方の中ではブランドとして使われております。海外16か国にも輸出していて、4割は海外での売り上げになっているとのことで、国際的に活躍されており、その辺りのお話もして頂けると思っております。東日本大震災の時に避難所を回り、編み物を教えて避難された人を元気づけていたアメリカの有名な方がいる

んですが、その方が一度生駒市に来られた時に、近畿編針があるということにとても感銘を受けておられました。

【「寄附・ふるさと納税」のページを開設】

市長 寄附やふるさと納税のホームページを新たに開設しました。今までもふるさと納税だけのページはありましたが、ふるさと納税は在住の市民の方がしても返礼品は出ませんが、これだけではなく、市内の方が寄附して頂く、一般寄附や生駒市が全国初で取り組んでいる遺贈寄附、その他ふるさと納税の企業版の4つをまとめたサイトを整備しました。生駒市では野良猫の去勢・避妊手術や卒煙サポートにふるさと納税を活用して行ったりしておりますが、基本的には生駒市に住んでおられた方や今住んでいる方で生駒市を応援したいという方に頂くのが主旨だと思っておりますので、一般寄附や遺贈寄附なども入れ込んだ新たなページを作りました。本日から公開しておりますのでよろしくお願いいたします。

【 質疑応答 】

(官民プロ人材の職員採用試験)

記者 生駒市が副業となっている7人は、それぞれどの分野ですか。

担当課長 生駒市を副業としているのは、会計年度任用(非常勤)職員の方ですが、分野としては収益確保1名、首都圏PR2名、ICT推進1名、人事改革2名、教育改革1名です。

市長 収益確保の2名の内1名は生駒市が本業で、それ以外は生駒市が副業となります。

記者 テレワーク希望は、この中にいますか。

担当課長 副業の7人の内の6人です。

市長 近くで住まれているので、テレワーク希望でない方がICT部門で1人います。ただ、テレワーク希望の方も市役所へ出勤することもあります。

記者 12人採用予定者は、県外の方が多いですか。

担当課長 県外の方が多いです。市内はいません。

記者 合格者と採用予定者は同じですか。

市長 今後勤務条件等を調整していく中で変わる可能性はあります。首都圏PR分野では3名の合格者で1名辞退されておりますが、合格された方はほぼ採用となります。

記者 現時点で合格者が13名で採用者が12名ということですね。

担当課長 1名辞退がありましたので、首都圏PR分野の倍率は27.7倍から41.5倍になります。

記者 募集は1部門1人でしたが、それ以上に採用された理由は何ですか。

市長 常勤職員なら各部門1名程度と考えておりましたが、合格者の3分の2が非常勤職員ですので、人数としては12名になりました。全体的には想定していたマンパワーであると思っております。良い人材がいたので増えたということもあります。

(職員業績表彰に市民からの投票による職員への表彰枠を新設)

記者 職員表彰では、ノミネートされた中から選ぶということですか。

担当課長 はい。

記者 職員業績表彰というのは以前から行っていますか。

市長 表彰の部門を変えたのは昨年度ですが、表彰自体は20年以上前から行っています。

(「ケアリンピック生駒」の開催)

記者 武蔵野市に続いて西日本初ということですが、新しい取り組みはありますか。

担当課長 中学生・高校生の職場体験学習や介護事業所と医師が行う ACP を考える寸劇、また、介護事業者向けの相談コーナーに市内の医療機関の医師をお願いしたりということは初めてです。

(その他の質問)

質問なし

(了)